

## 本校の活動状況報告及び 教育点検システムの点検結果報告書(平成 24 年度)

### ○ 点検手順と日程

点 検 内 容	日 程
1. 平成 24 年度運営委員会の構成メンバー等に、各担当部署の現時点までの活動状況について報告書の提出を依頼	2/14(木)運営委員会で 予告 2/22(金)依頼 3/25(月)〆切
2. 提出された報告書に対し、本校全体の活動状況を主体に、自己評価委員がそれぞれコメントを記入	4/22(月)依頼 4/30(火)〆切
3. 提出された全部署の活動状況報告書とそれに対するコメントをまとめ、当該メンバーに返却。各担当部署の年度末までの活動状況について加筆を依頼。その際、他の部署の記載内容も参考に、実施状況の追記や評価の再確認、未記入欄や誤字脱字等については注意を促すなど、必要な修正を依頼	5/13(月)依頼 5/24(金)〆切
4. 自己評価委員から提出されたコメントをもとに、自己評価委員長が総括の原案を作成し、自己評価委員に送付	6/7(金)送付
5. 自己評価委員会において、本校の活動状況ならびに教育点検システムが機能しているかどうかについて総括の検討	6 月末自己評価委員会
6. 活動状況報告ならびにシステムの点検結果報告書をまとめ、公表	7 月の運営委員会にて 公表

### ○ 総 括

本校は、学習・教育目標をはじめとして、教育点検システムを含む教育体制がほぼ確立した状況にあり、平成21年度末には第2期中期計画が定められ、この中期計画をベースに、前年度の課題を次年度の PLAN に加え、それを実現すべく Do、Check、Action を行うこととしたことにより、点検・評価の指標が明確になってきた。

次ページ以降に、運営委員会を構成する各部署等から提出された平成24年度における活動状況報告を示す。ここには、各部署の責任者が、自身が関与する項目に対して、PLAN(年度当初の活動方針・活動計画)、DO(実際に行った活動)、CHECK(活動のチェック)、ACTION(チェックをした結果の対応)、ならびに PDCA の点検結果(PDCA サイクルが機能しているかどうか)について自己評価した結果が、その理由とともに示されている。なおそれら(部署ごとの報告書)の前に、本校の第2期中期計画に沿い、全体の活動状況としてまとめ直したものを掲載する。

各部署において判断した PDCA の点検結果では、教育点検システムが「機能している」と判断したのは 21 部署中 16 部署、「ある程度機能している」が 5 部署となり、平成 23 年度と同様の結果となり、各部署における PDCA サイクルが安定して機能している状況が窺われる。この結果により、本校全体の PDCA サイクルは安定して機能していると判断できる。

その一方、今回の総括を行う過程で、問題点も浮き彫りになってきた。本校全体の活動状況は、139 の評価項目中、S(年度計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である)は 21 項目(15%)、A(順調に

進捗している)は98項目(71%)、B(やや遅れている)は12項目(9%)、C(大幅に遅れている)は6項目(5%)となっており、平成23年度に比べてSが12%から15%へと増加しているものの、Aが77%から71%へと減少し、Cが2%から5%へと増加している。このことは、各部署における活動において達成状況が顕著な項目とやや遅れが目立つ項目とが2極化しつつあるようにも考えられる。

平成24年度に達成度が顕著だったものとして、英語力向上タスクフォースIIの答申に基づく英語教育改革の成果、学校広報活動の充実、クラブ活動、情報処理センターによる学内LANシステムの更新、テクノロジーフレッシュ教育センターの活動、学生相談室の活動、学生寮における学習環境の改善、土木建築工学科において建築士法改正に伴い進められていた新カリキュラムの完成、自己評価委員会を中心とした機関別認証評価への取り組みなどがあげられる。一方、教員の採用や人事交流、外部資金の獲得に関しては、さまざまな想定外の状況も重なり達成度の遅れが目立っている。

平成24年度に受審した高等専門学校機関別認証評価で本校の教育プログラムは高い評価を受けた。しかし、高く評価された項目は改善のための適切なPLANが策定され、Do、Check、Actionが機能し、説明可能な成果が上がっているものに限られている。本校において自己評価等のシステムはほぼ整っていると見えるが、Actionがやや弱いことは反省すべき点であり、今後、組織の再編や制度改革も視野に入れActionの強化を図るべきであろう。平成25年度には本校の第2期中期計画が終了し、第3期中期計画を策定することになるが、ここ数年間、次期中期計画の策定につながるような大胆な取り組みがやや低調であったという印象は否めない。

我々は、今後、国際社会の動向も踏まえた大局的な見地から、技術者教育の一端を担う本校全体の活性化に向け、必要なPLANを立て、第3期中期計画を策定し、それを実現すべくDo、Check、Actionを強化し、本校の教育・研究の特徴を活かし、その特徴を毎日磨き、向上させる努力を続けなければならない。

平成25年6月  
自己評価委員会